

昭和48年12月1日(特集号)

### 成果の具現は新組織下の課題

10月5日調査5線の整備計画が諮問され、17日東北新幹線の東回りが正式に答申決定された。

10月23日、さきが発足した青森県側の統一組織化に次いで、本県側にも秋田県新幹線建設促進協議会が発足、今後の運動推進は、これら統一された新組織へ移行されるところとなった。

そして10月27日、運輸省は日本海

新幹線を羽越新幹線と改称し、奥羽など他の11路線とともに鉄道建設審議会へ基本計画を諮問、11月2日答申を受けてこれを正式に決定した。

しかし、これら12路線は昭和60年を目標とし重要度、緊急度に応じて段階的に建設することになっており、羽越新幹線は、中央新幹線などと共に、最重要路線として認められながらも、内情外勢

の変化には相当厳しいものがあり、同時完工の確約がいかに果されるかは今後の課題として残されるところとなった。

したがって私たちは、これまでの運動に中心的な役割を果たしてきた経緯を踏まえて、今後とも重大な関心と決意をもって対処する必要があるのです。

### 停車駅は当然

起点、終点、主な経過地以外の停車駅は整備計画から実施計画にかけて具体化

されるが、少くとも羽越新幹線は大館—弘前を通る西回りルート为解决策として示されたものである以上当然であり、路線が変わったから問題は白紙だというような理屈は成り立たない。停車駅間の距離を東北新幹線の東京—盛岡間について見ても、最短は那須(仮称)一新白河(仮称)間27キロ、最長は大宮—小山間49キロ、平均38キロとなっており、青森—弘前間37キロ、弘前—大館間44キロと位置的にも適当である。



11月17日第5回解散総会でこれまでの経過を説明する市長(北秋クラブ大広間で)

### 同盟会のあゆみ

- 46 7 16 大館市ほか12か町村をもって同盟会設立。
- 46 9 27 弘前市ほかか市町13か市町村加盟
- 46 11 10 能代市、山本郡7か町村加盟
- 46 12 20 秋田県議会意見書採択
- 47 1 21 常任理事、北海道庁、札幌函館市など協力要請
- 47 1 27 県内8市議長会、県商工会議所連合会誘致促進決議
- 47 1 27 石川副会長、同和、日鉄、三菱本社等中央財界に協力要請
- 47 2 7 秋田県、地軽地域商工会議所誘致促進決議
- 47 2 14 弘前市議会、意見書議決
- 47 2 21 大館市議会、特別委員会設置、意見書議決
- 47 2 28 第2回秋田県町村議会議長会総会、促進決議
- 47 4 21 第3回総会、第1回総決起大会開催(東京)
- 47 5 7 大館市老人クラブ連合会誘致促進決議
- 47 6 15 同盟会傘下全市町村、郵便物に協力要請をスタンプして発送する運動開始
- 47 7 10 啓発チラシ17万枚配付
- 47 7 7 秋田テレビでスポット放映
- 47 7 26 PR用横断幕、懸垂幕140枚設置
- 47 8 4 観光客PR用ステッカーを加盟団体各旅館へ配付
- 47 8 11 全国知事、全国県議会議長東北、北海道全市長、議長人口10万以上の全国市長議長に対する協力要請(八戸側、岩手を除く)
- 7 8 14 PR資料を作成関係方面に配付
- 47 8 22 東京都在住津軽地域県人会へPR用絵ハガキシリーズ配付
- 47 8 22 経団連役員190名に文書資料を配付協力要請
- 47 8 23 都内(赤坂見附)で絵ハガキ街頭配付
- 47 9 18 近畿県人会313人に対して絵ハガキによる1人1枚要望運動を要請
- 47 9 25 衆参両院国会議員714名に対して文書、資料による協力要請
- 47 9 25 同盟会首脳、鈴木発言対策協議
- 47 9 26 北海道秋田県人会349名に1人1枚要望運動を要請
- 47 8~10 東京都内7か所で絵ハガキ24,200枚の街頭配付

### 声 明 書

我々は、立ち遅れている秋田・津軽地域の発展を図るべく、あしかけ3年の長きに亘り、東北新幹線秋田・津軽ルートの誘致運動に精根を傾注してきたところであるが、その結果、東北、羽越両新幹線の同時完工と、両線を結ぶ奥羽新幹線を実現することで運動の決着をみるに至った。

これら新幹線は、当初我々が主張したルートは異なるものであるが、しかし、その目的は十分果し得るものであるばかりでなく、これが実現は、秋田・青森両県における県内事情にとってはもとより、関係各県がかかえてきた新幹線体系の課題に対しても、一挙、妥当な解決をもたらすものであって、まさに画期的な成果である。


しかし、今後これら新幹線の建設促進は、ひとり大館弘前を中心とした一地域の問題ではなく、秋田、青森両県をはじめ、東北の全地域的問題としてとりくみ、組織化されることとなった現在、本会の目的は十分達せられたものであり、ここに発展的に解散するものである。

いうまでもなく、本会は、かかる経緯を踏えた中で、今後の運動に大きな前進を期待するものであるが、これら新幹線の実現、とりわけ羽越新幹線の同時完工を期するには、なお多くの困難が予想されるところであり、その克服には、さらに一段と強力な組織と、結束した運動の展開が要請される。

よって我々は、今後とも、これが連帯の一員として、重大な関心と決意をもち、運動の推進に積極的に参画するものである以上声明する。

昭和48年11月17日

東北新幹線秋田・津軽ルート  
誘致促進期成同盟会、解散総会



声明を提案する  
藤森弘前市長



東西ルートの運動を通じて最大の市民大集会(体育館で)

- 47 10 9 47年度版パンフレット配付
- 47 10 24 津軽物産展(東京)で絵ハガキ配付
- 47 10 25 正札デパートで理事会開催
- 48 1 22 東京で第2回総決起大会開催
- 48 3 27 大館市民大集会、市民体育館に約2000人が集まり開催
- 48 4 10 東京で第4回総会、第3回総決起大会を開催
- 48 4 26 青森知事県論統一調停工作のための津軽側意見を聞く
- 48 4 26 青森県西北五地域7市13か町村、同盟会加盟の意志表明
- 48 5 14 常任理事会開催、西北地域14市町村加盟決定
- 48 6 5 東京で第4回総決起大会を開催
- 48 7 19 最終段階での要望、資料を関係方面に配付
- 48 7 25 正副会長、顧問、田中総理大臣に陳情
- 48 8 1 青森県知事、県論統一の調停案を説明(青森市)
- 48 8 4 常任理事会開催、既定方針を確認。
- 48 8 28 会長、石川副会長、田沢、竹内副議長と共に田中総理大臣に陳情、「日本海新幹線の同時完工確約」
- 48 8 29 衆参両院議長に請願書提出(4面へ続く)